

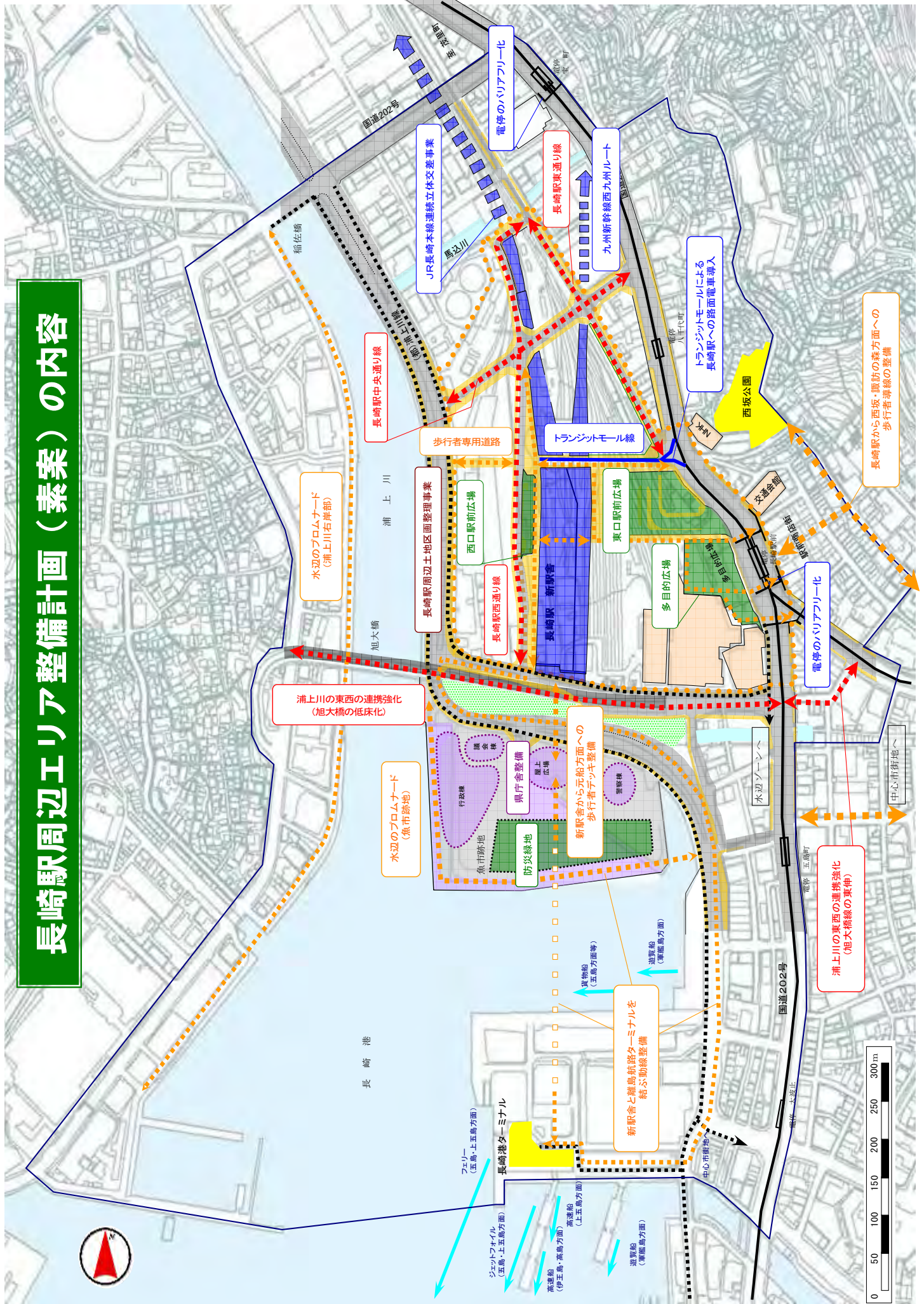
松が枝周辺エリアにおける新たな動き



国際ゲートウェイ機能のイメージ

クルーズ客船2隻と上海定期船が同時に着岸出来るようふ頭を延長する構想（現在検討中）

長崎駅周辺エリア整備計画（素案）の内容



長崎駅周辺エリアの整備イメージ

※施行期間は、新幹線の開業予定時期をH30年春としていた
ときのものであり、今後見直しを行う予定。

長崎駅周辺土地区画整理事業

面積19.2ha、施行期間H21～H35、事業費約164億円

多目的広場

長崎駅

東口駅前広場

新幹線

県庁舎建設予定地

旭大橋

西口駅前広場

浦上川

在来線

旭大橋の低床化（検討中）

JR長崎本線連続立体交差事業

延長2.5km、施行期間H21～H32、事業費約431億円

長崎駅周辺の整備イメージ

九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)について

平成23年12月26日、整備新幹線問題検討会議が開催され、現在建設中の武雄温泉～諫早間と新たな区間である諫早～長崎間を一体的な事業としてフリーゲージトレインの導入により整備する着工方針が示された。

その後、「収支採算性」と「投資効果」について確認がなされ、平成24年4月27日のJR九州の同意により、政府が示す着工条件が整った。6月12日に建設主体の鉄道・運輸機構から国土交通省に対して認可申請が行われ、6月22日付けで同省から関係各県に対する意見照会がなされ、6月26日付けで本県として異存のない旨の回答を行った。

これを受け**6月29日**、国土交通大臣が九州新幹線西九州ルート(武雄温泉・長崎間)、北海道新幹線(新函館(仮称)・札幌間)及び北陸新幹線(金沢・敦賀間)について**工事実施計画の認可**を行った。

【所要時間】

国土交通省試算(平成23年12月公表)

最速:博多～長崎間 **1時間20分**(現行より28分短縮)

※条件:武雄温泉～長崎間をフル規格で整備し、

フリーゲージトレインで運行

【建設費】 **約5,000億円(武雄温泉～長崎間)**

【工事計画等】

・武雄温泉～長崎間(約66km) 認可後概ね**10年後完成**

フリーゲージトレインの導入によるフル規格整備

※新たな区間である諫早～長崎間を一体的に整備

・肥前山口～武雄温泉間の複線化

※武雄温泉～長崎間と一体的に整備

・フリーゲージトレインの開発促進

※24年度予算に開発費約62億円(対前年3倍)を計上し、

新たな試験車両の製作等により実用化を目指す。



西九州ルートの整備は沿線地域だけでなく長崎県全域の活性化へ繋がる

長崎県が全国の新幹線ネットワークにつながると、交流人口の拡大は、新幹線沿線だけでなく、長崎県全体に及ぶと考えられる。さらに佐賀県も含め、西九州地域の一体的発展に繋げていくことが重要。

ただし、新幹線が出来たからといって、全ての地域課題が解決するわけではない。

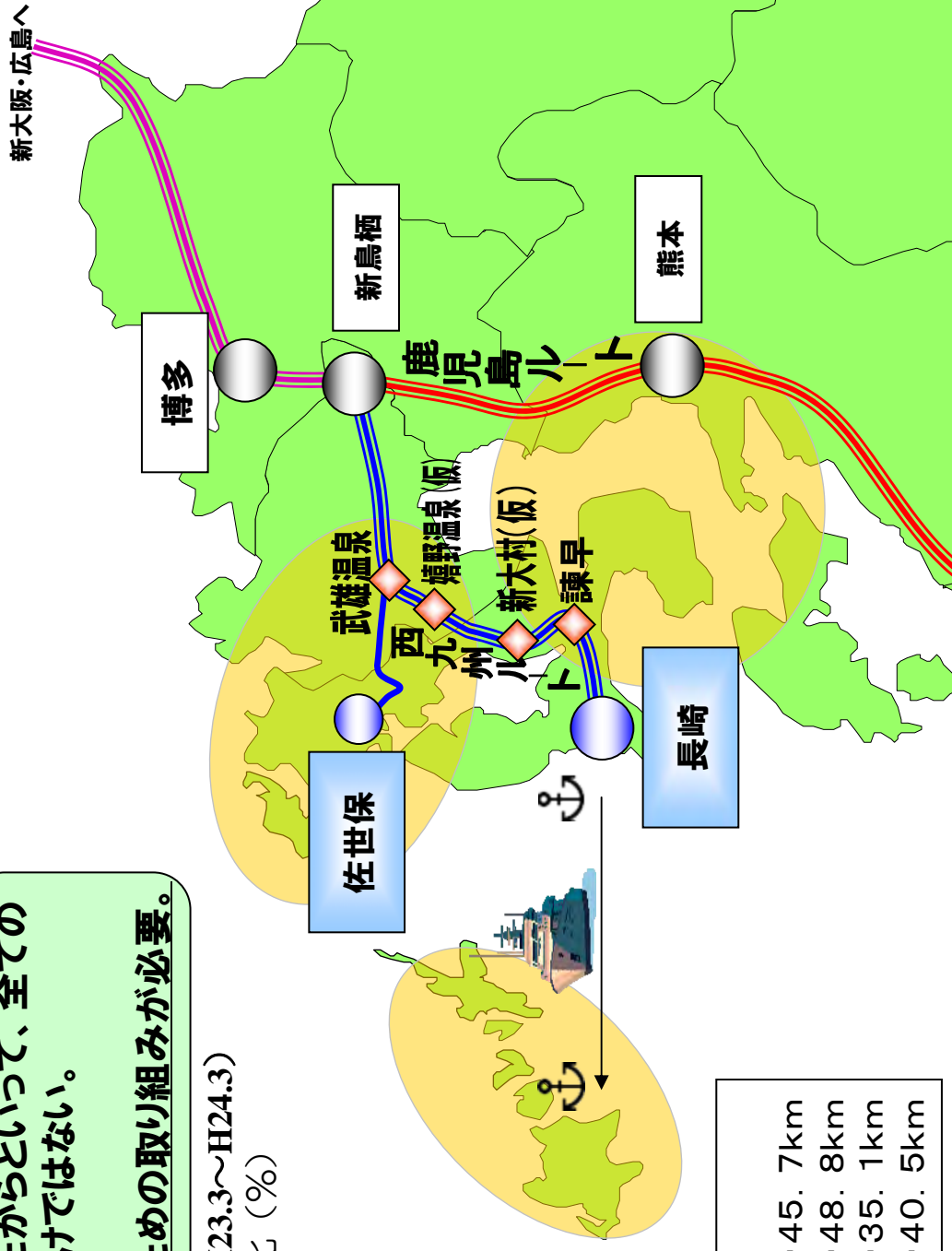
それぞれの地域が輝くための取り組みが必要。

○鹿兒島県観光動向調査 (H23.3~H24.3)
(宿泊客数増減比) 対前年比 (%)

	鹿兒島地区	指宿地区	霧島地区
3月	▲8.3	▲23.9	▲49.2
4月	21.3	▲3.7	▲36.7
5月	13.9	27.0	▲21.5
6月	23.7	56.6	1.0
7月	19.1	60.9	21.8
8月	21.3	40.9	7.8
9月	18.3	67.1	6.1
10月	23.9	73.8	10.0
11月	17.5	56.8	11.7
12月	11.9	31.5	8.4
1月	2.0	21.4	11.4
2月	2.4	34.1	89.7
3月	13.8	64.7	99.0

(参考)新幹線駅からの距離

鹿兒島中央～指宿間………45.7km
 鹿兒島中央～霧島温泉間……48.8km
 武雄温泉～佐世保間………35.1km
 諫早～島原間………40.5km



新たな県庁舎の建設

基本理念 県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり

- ・ 県民生活の安全・安心を支える庁舎
- ・ 県民サービス向上のための機能的で新時代環境共生型の庁舎
- ・ 県民に優しく、県民が親しみを感じる庁舎

【建設までのスケジュール】

- ・ 平成24年3月 行政棟・議会棟等の設計業務に関する契約を締結
- ・ 平成24年7月 警察棟の設計者の募集開始予定
- ・ 平成25年11月末 設計完了
- ・ 平成28年度中 新庁舎の完成

新しい日中交流の懸け橋「長崎～上海航路」の復活

辛亥革命100周年、長崎県と上海市の友好交流関係樹立15周年に当たる2011年、「長崎～上海航路」が復活しました。長崎県は、この航路の復活を長崎県全体の活性化につなげるとともに、わが国の成長にも貢献する航路として育てていきます。

長崎～上海航路の概要

- 船 名:オーシャン ローズ
- 運航会社:HTBクルーズ株式会社
- 総トン数:30,413トン、最大収容:約750名
- 所要時間:片道28.5時間



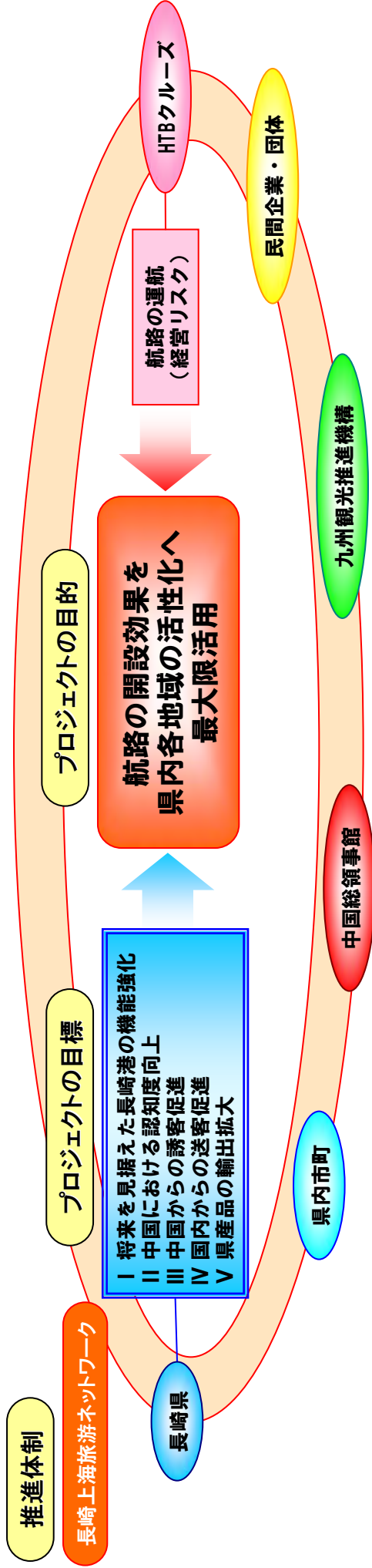
コンセプト

ローコスト・インターティーンメント・シッフ

運航計画

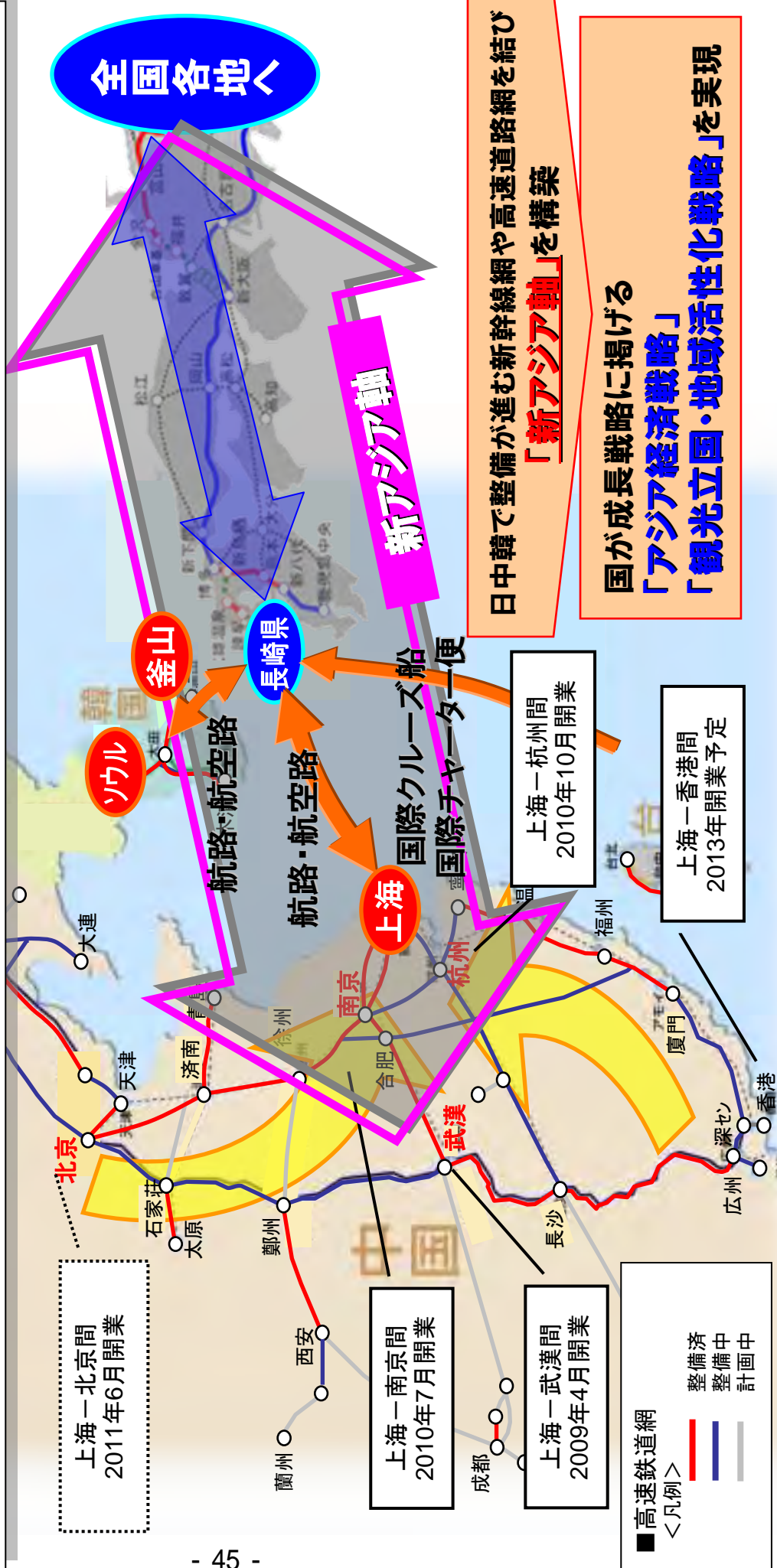
- H23.11.3～11.6 就航記念便 1往復運航
- H24.2.29～ 営業運航開始
- H24.5月下旬～ 船舶改装工事実施
- H24.7.25 運航再開

長崎～上海航路推進プロジェクトの目的及び推進体制



新アジア軸の構築をめざして

- 長崎県は、アジアとの近接性や歴史的なつながりといった優位性を活かしながら、日中韓で整備が進む新幹線網や高速道路網を結ぶことで人や物の流れを生み出し、「新アジア軸」の構築を目指します。
- 今後、この「新アジア軸」をより太いものとしていくことが、日本とアジアの平和・友好の一層の促進と経済の成長につながります。そのためには、「新アジア軸」の結節点となる長崎県において相互交流の拡大や産業の国際競争力の強化を図っていく必要があります。



日中韓で整備が進む新幹線網や高速道路網を結び「**新アジア軸**」を構築

国が成長戦略に掲げる「**アジア経済戦略**」
「**観光立国・地域活性化戦略**」を実現

■ 高速鉄道網
<凡例>
— 整備済
— 整備中
— 計画中

平成23年11月 就航記念便の概要

平成23年11月、上海航路第1便が就航する機会をとらえ、上海航路の船内、中国、日本のそれぞれで日中交流促進のための取組を集中的に実施し、平成24年2月末からの本格運航につなぐためのキャンペーンとして展開。

長崎港
⇒上海港



李文亮 駐長崎中国総領事 講演

上海港
⇒長崎港



泉裕泰 在上海日本国総領事 講演



変面



二胡演奏



上海さるく



観光・物産ブース



鯨太鼓体験



日本舞踊体験

営業運航開始後 商店街における中国人観光客



県立図書館再整備について

【県立図書館の現状】

- ・ 建設から52年を経過し老朽化が進行
- ・ 収蔵能力約70万冊のところ約102万冊を収蔵し、一部は館外に保管
- ・ 1階、3階部分が耐震基準を満たしていない（ひび割れも）

→ 早急な建て替えが必要な状況

【県立図書館再整備検討会議答申】（H23.3）

[役割・機能] 市町立図書館の支援、資料の収集・保存等
[在るべき姿] 知の拠点として、今後50年を十分見据えた施設
（延床面積1万㎡以上、開架30万冊、閉架150万冊、広い駐車場など）
[建設場所] 長崎市（常盤・出島地区交流拠点用地）
又は
大村市（大村警察署跡地周辺） 又は 市民体育館跡地）

※「県庁舎跡地」を県立図書館の建設候補地とすることは、再整備検討会議において一定の議論が行われたが、早急な建て替えが必要である県立図書館の建設候補地とはならなかった。

【再整備までの流れ】

- ・ 整備基本方針の策定（基本理念、役割・機能、建設場所、整備・運営方法等）
- ・ 整備基本計画の策定
- ・ 設計・建設
- ・ 開館

→ 最短で、整備基本方針の決定から開館まで5年程度

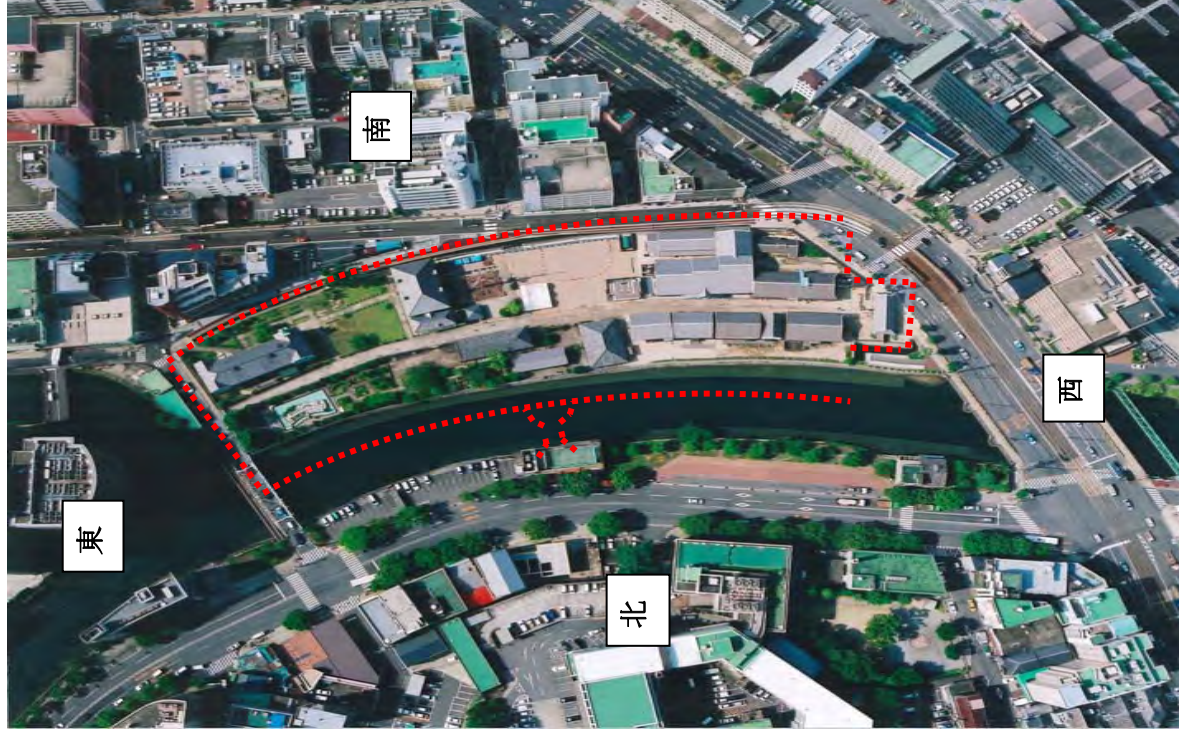
【検討の状況】

- ・ 再整備検討会議の答申を受け、関係者のご意見等を伺いながら、
県立図書館の整備基本方針の策定に向けて検討中
- ・ 教育委員会事務局としては、本年度中に整備基本方針を策定し、
整備基本計画の策定に向けた手続きを開始するべく鋭意作業中

出島和蘭商館跡復元整備経過

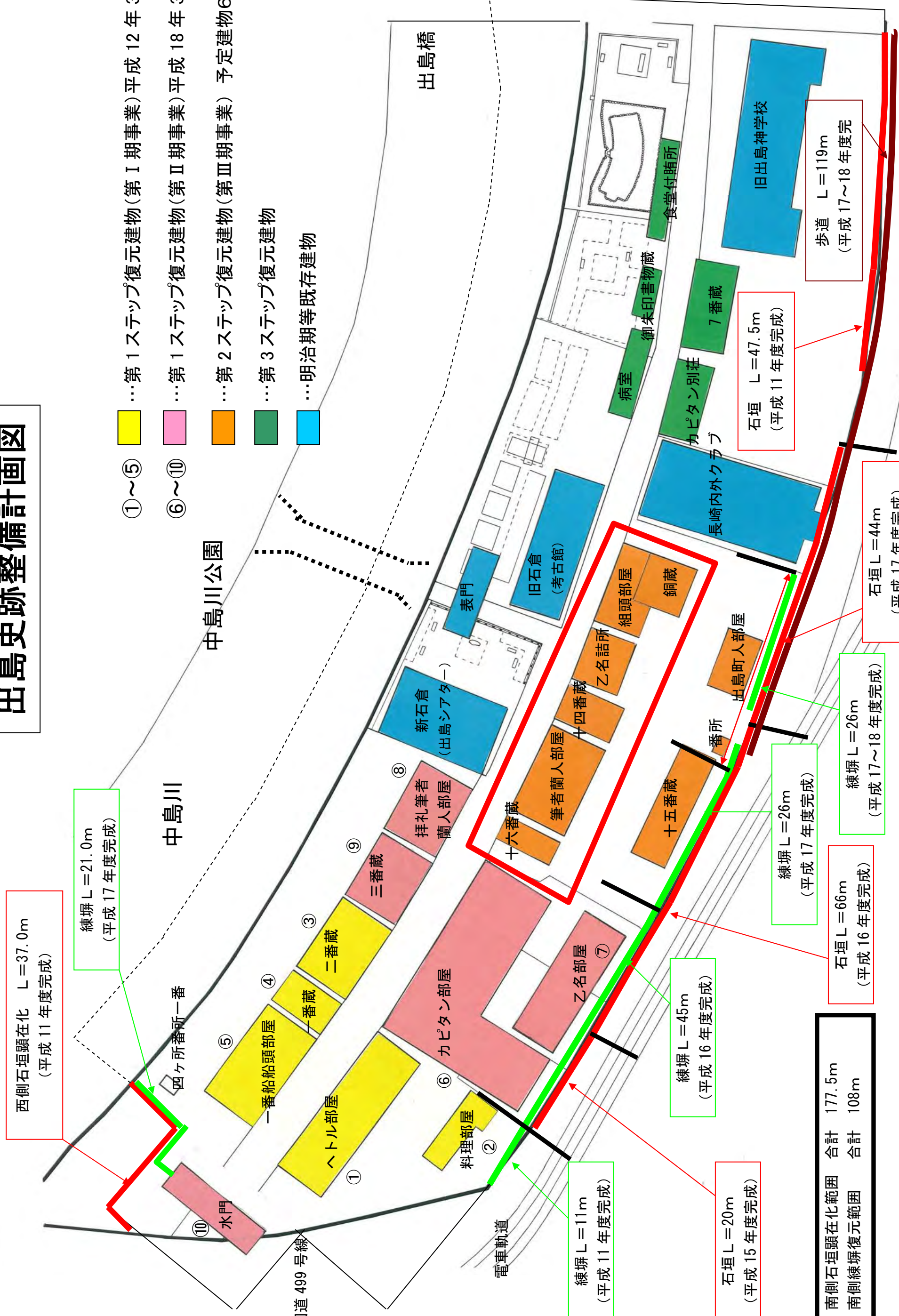
1. 昭和 26(1951)年 復元整備事業着手
 - ・ 史跡内民有地の公有化に着手
 2. 平成 8(1996)年 3月 史跡「出島和蘭商館跡」復元整備計画の策定
 - ・ 19世紀初頭の出島を復元
 - (短中期整備計画) 平成 8年度から概ね 15ヶ年をかけて整備 (第 3ステップ)
 - ◎建造物の復元・19世紀初頭にあった 49棟のうち 25棟復元
 - ◎出島周囲の護岸石垣の復元
 - ◎出島表門橋の復元
 - (長期整備計画) 四方に水面を確保し、19世紀初頭の出島の完全復元を目指す
 3. 平成 12(2000)年 3月 短中期計画第 1ステップ第 I 期事業完成 (平成 8年度～11年度)
 - ・ 建造物 5棟の復元 (へトル部屋等)
 - ・ 南側及び西側護岸石垣の一部復元※平成 12年度・日蘭交流 400周年事業
 4. 平成 13(2001)年度 史跡内民有地の完全公有化 (事業着手から 50年)
 5. 平成 18(2006)年 3月 短中期計画第 1ステップ第 II 期事業完成 (平成 13年度～17年度)
 - ・ 建造物 5棟の復元 (カピタン部屋等)
 - ・ 南側護岸石垣の復元及び練堀の整備※平成 18年度・「長崎さるく博'06」開催
 6. 平成 18(2006)年 4月 リニューアルオープン
- ◎今後の整備予定
- 平成 28(2016)年度供用開始
 - ・ 第 2ステップ第 III 期事業 平成 28(2016)年度供用開始
 - 6棟の復元 筆者蘭人部屋、十四番蔵、十六番蔵、乙名詰所、組頭部屋、銅蔵
 - ・ 表門橋架橋及び関連事業

出島航空写真 (平成 18年 8月 22日撮影)



出島史跡整備計画図

- ①～⑤ ……第1ステップ復元建物(第I期事業)平成12年3月完成
- ⑥～⑩ ……第1ステップ復元建物(第II期事業)平成18年3月完成
- ……第2ステップ復元建物(第III期事業) 予定建物6棟
- ……第3ステップ復元建物
- ……明治期等既存建物



南側石垣顕在化範囲	合計	177.5m
南側練塀復元範囲	合計	108m

長崎市におけるMICE施設の整備検討状況について

～長崎市コンベンション施設設置アクションチーム施設整備部会中間報告(平成24年1月)～
(※本文の項目については、決定事項ではなく平成24年度も継続して検討中である)

MICEとは・・・

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報
奨・研修旅行(インセンティブ旅行)
(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会
等が行う会議(Convention)、展示会・見本
市、イベント(Exhibition/Event)といった、多
くの集客交流が見込まれるビジネスイベン
トなど。

【将来ビジョン】

多様で先進的な人・もの・情報が交流し、未来を創る
MICE 世界都市 長崎

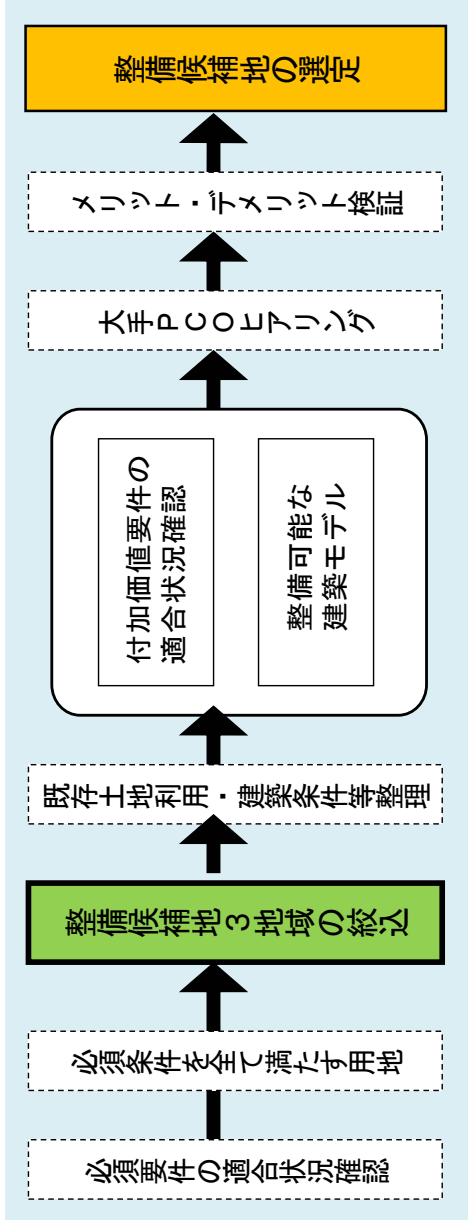
将来ビジョンを実現するための施設整備の基本コンセプト

未来へのゲートウェイ～世界へ羽ばたく長崎の新たな都市交流拠点
「(仮)長崎MICEセンター」

長崎国際会議場・国際展示場

候補地の選定

長崎市コンベンション施設調査検討委員
会提言書(以下:「委員会」と略)における
立地場所の選定条件より12の抽出条件
(必須条件6、付加価値要件6)を設定し、
右の流れで選定を行い最終的に長崎駅
西側の用地(JR貨物所有 約2万平米)を
候補地として選定した。



長崎市におけるMICE施設の整備検討状況について

～長崎市コンベンション施設設置アクションチーム施設整備部会中間報告(平成24年1月)～
(※本文の項目については、決定事項ではなく平成24年度も継続して検討中である)

【必須要件】

- 平成20年末に国土交通大臣から都市再生総合整備事業の実施区域としての指定を受けた「長崎市中央部・臨海地域」の「長崎市中央部・臨海地域」都市・居住環境整備基本計画(平成22年3月策定 長崎県・長崎市)」における重点地域(約1,360ha)
- 中心部の身近な移動手段である路面電車電停より概ね300m(徒歩5分)以内の場所
- 敷地面積1万㎡以上の用地(建築面積8千㎡(ホール6千、その他2千㎡)程度が立地可能な用地)
- 現状において更地や建物の移転計画などがあり一定の整備可能性が存在する用地
- 概ね5年以内に着工が可能な用地(新幹線が開通する平成30年度中に竣工可能な用地)
- 市有地又は取得(貸与含む)可能性がある用地

【付加価値要件】

- 新長崎駅に近いほど利便性が高い(バスや鉄道、タクシーなどとの接続も含め長崎駅とする)
- 半径500m以内のホテル数・客室数が多いほど利便性が高い(500mはタクシー1メーター、最大徒歩圏内)
- 加盟店舗50店以上の商店街に隣接するほど利便性が高い
- 海や山などの自然景観や歴史的資源など長崎固有の景観・眺望を臨める場所ほど付加価値が高い
- 敷地面積が広いほど自由度が高い(駐車場やホテル等の併設が可能となる)
- 住環境に影響を及ぼさない場所ほど住民理解が得やすい



長崎市におけるMICE施設の整備検討状況について

～長崎市コンベンション施設設置アクションチーム施設整備部会中間報告(平成24年1月)～
 (※本文の項目については、決定事項ではなく平成24年度も継続して検討中である)

導入機能

- ①ワンストップ型の受け入れ環境づくりに貢献する施設
- ②会議にあわせた展示会や単独での展示会・イベントなどを開催できる多機能型の施設
- ③国際会議などを開催できる施設

基本構成	機能	想定されるMICE
コンベンション	コンベンション機能	5,000人規模の大会、総会等
	分科会機能	大規模コンベンションの分科会等
	国際会議機能	国際学会、政府間会合等
展示会 イベント	レセプション機能	大規模コンベンションの懇親会等
	展示機能	大規模コンベンションと同時開催される展示会、単独の展示会・商談会等
	商談機能	
会議	スポーツ・イベント機能	スポーツイベント、市民イベント、物産展、試験、その他多様なイベント
	各種会議・セミナー機能	講演会、会議、ワークショップ等
インセンティブ	インセンティブ機能	表彰式、レセプション等
ホテル	宿泊に加え会議やレセプション開催の場として、ハイグレードクラスの付加価値の高いホテルを民間事業として誘導	
駐車場	一般車両・大型バスの駐車場。必要に応じ立体駐車場も検討	

長崎市におけるMICE施設の整備検討状況について

～長崎市コンベンション施設設置アクションチーム施設整備部会中間報告(平成24年1月)～
(※本文の項目については、決定事項ではなく平成24年度も継続して検討中である)

ゾーニングイメージ(1階)

パブリックゾーン

メインホール
(約3,000㎡)
※分割可能

メインホール
(約3,000㎡)
※分割可能

※仕上げの異なる2空間、一体で6,000㎡程度

事業費・事業スキーム

- ・他事例では建設費45万円/㎡～60万円/㎡程度
- ・多様な民間活力を活かした効率的な整備が必要(PFI、PPP等)
- ・その他建設費の0.5%前後が年間修繕費として必要

施設の運営形態

- ・施設の管理運営は民間が担うこと
- ・独立採算・利益還元型の運営形態を目指すことが望まれる

運営収支

- ※延床面積13千㎡程度、貸床事業のみ、稼働率60%、賃料単価は福岡類似施設よりも安価の場合
- ・運営コストは類似都市ベースで19～26千円/㎡程度(※21千程度以下が理想)
- ・工夫次第で貸床事業のみで「独立採算」の可能性あり
- ・主催事業収入などその他収入如何では利益還元型の可能性あり

経済波及効果

85億円(新規誘発分のみ)

長崎市におけるMICE施設の整備検討状況について

～長崎市コンベンション施設設置アクシオンチーム施設整備部会中間報告(平成24年1月)～
(※本文の項目については、決定事項ではなく平成24年度も継続して検討中である)

今後(平成24年度)の予定

国土交通省が推進する先導的官民連携支援事業に、「東アジア等を展望した(仮称)長崎MICE拠点地区整備に係る官民連携調査事業」が選定されたため、今年度は次の項目について調査を行う。

「東アジア等を展望した(仮称)長崎MICE拠点地区整備に係る官民連携調査事業(H24.8月初旬～25.3.1)

- ・東アジア等との連携方策(インセンティブツア一誘致、東アジア等市場とのマッチング等)
- ・国際機関との連携方策
- ・国際会議の誘致方策
- ・周辺地域との連携方策(周辺回遊性向上策、交通機能、広域観光・滞在プログラム整備等)
- ・地元密着型MICE産業の創出
- ・MICEセンター等の整備・運営に係る民間活力導入可能性
- ・(仮称)長崎MICE拠点地区の整備に関する民間活力導入可能性
- ・賑わい空間づくりに向けたMICE拠点地区マネジメント

市庁舎、公会堂に関する検討状況の概要

1 近年の検討状況

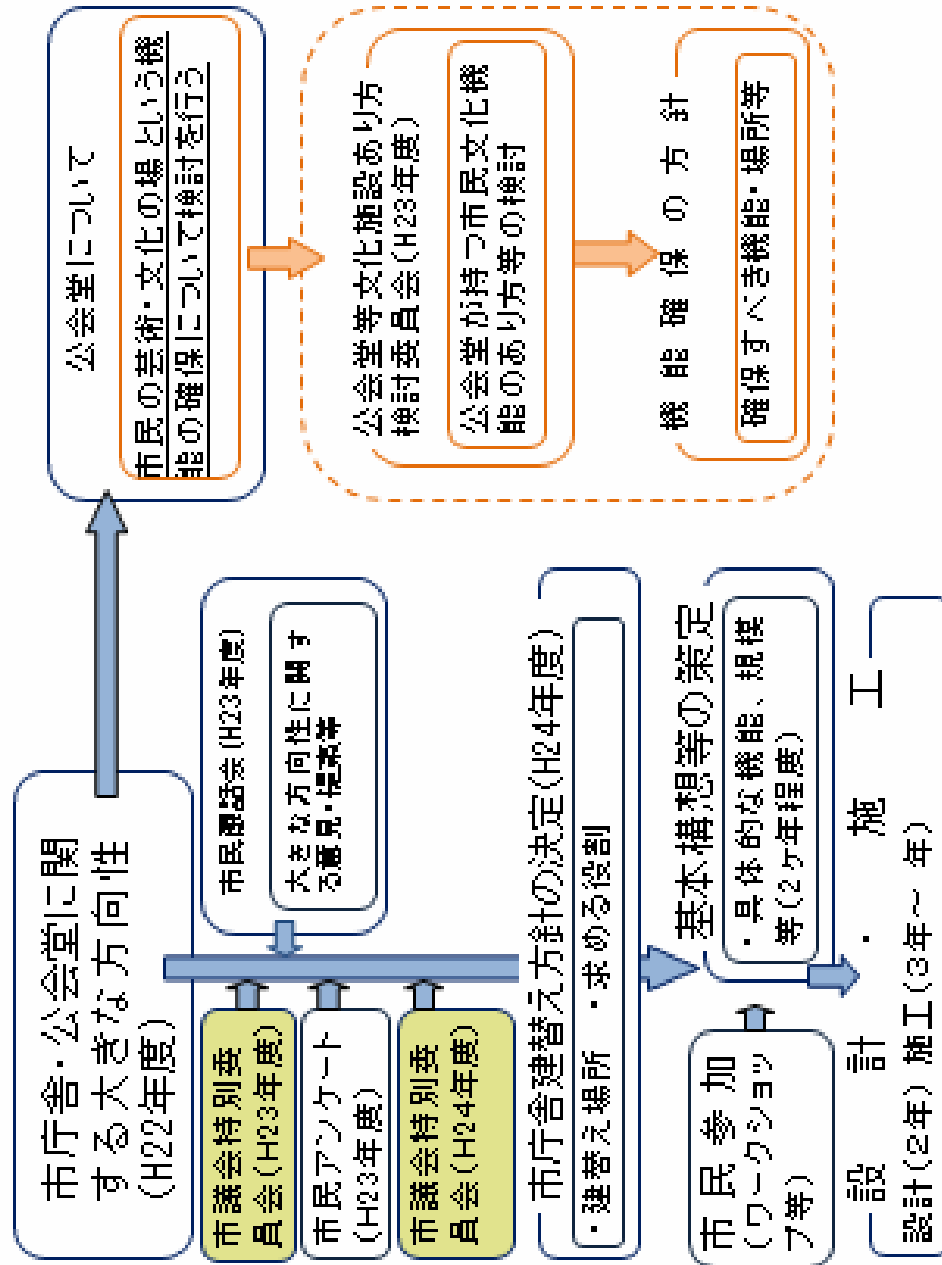
- ・平成 21 年度 市庁舎、市民会館及び公会堂の耐震診断を実施
- ・平成 22 年度 公共施設活用特別委員会
- ・平成 22 年度 大型公共施設更新計画検討会議(庁内)
- ・平成 23 年 2 月 市庁舎・市民会館・公会堂の耐震化方針（大きな方向性）を表明
- ・平成 23 年度 市庁舎建設特別委員会
市庁舎建替に関する市民懇話会設置
長崎市公会堂等文化施設あり方検討委員会設置
平成 23 年度庁内検討グループによる検討
- ・平成 24 年度 平成 24 年度市庁舎建設特別委員会
平成 24 年度庁内検討グループによる検討

2 大きな方向性について（平成 23 年 2 月公表）

- ① 施設の耐震化方針
 - ・市庁舎 「建替え」を耐震化の方針とする
 - ・市民会館 「補強」を耐震化の方針とする
 - ・公会堂 公会堂の「市民の芸術・文化活動の場」という機能は今後も必要であり、市庁舎の建替え計画の具体化と並行して、その機能の確保の方法について引き続き検討する
- ② 市庁舎の建替えを検討するエリア
 - ・現在の市庁舎がある場所から公会堂を含む一帯

3 今後の検討の流れ

今後の検討の流れ



長崎市庁舎建替に関する市民懇話会 報告書のポイント

1 新庁舎のあり方について

(1) 新庁舎建設に向けての基本的な理念

- 1 市民サービスの向上を図り、満足度を高める
- 2 業務の遂行力を高める
- 3 効率性・経済性を高める

(2) 新庁舎整備の基本方針、求める基本的機能

- ・第四次総合計画で示されている都市の将来像やまちづくりの方針につなげる必要がある
- ・新庁舎は、仕事の変革に対応する機能を備え、行政と市民のパートナーシップをより確かなものとする。50年、100年後の市民が誇り、愛着を持てるようなものとしなければならない

<基本方針>

- (ア) 市民に親しまれ、つながりの拠点となる庁舎
- (イ) 人と環境にやさしい庁舎
- (ウ) まちの活性化に貢献する庁舎
- (エ) 市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎
- (オ) 市民へ円滑なサービスを提供し、効率的な事務が行える機能的な庁舎
- (カ) 経済的で柔軟性のある庁舎

2 新庁舎の規模について

- ・規模を検討するにあたっては、将来的な人口減少、業務の効率化、支所等のあり方なども踏まえ、財政面の負担を軽減するため、より効率的でコンパクトな庁舎とするよう更に検討を続けるよう要望する

3 新庁舎の建設場所について

(1) 市が示したエリアについて

- ・まちづくりの観点等からこのエリアで検討を進めたいという市の考えについて大きな異論はない

(2) 建設場所について

- ・A案については、現状のバスをはじめとする交通利便性が高いこと、公会堂、市庁舎の建物配置に大きな変更がなく周辺の経済への影響がないこと、桜町駐車場の引き続きの活用ができることなどから良いとする意見があった
- ・B案については、一体的な建物が自由に配置できること、工事期間が短いため経済性が高く、市民の不便が少ないこと、まちなかの活性化につながることを期待されることなどから良いとする意見があった
- ・全体の意見の傾向としてはB案が望ましいという意見が多い状況であった

4 今後に向けて

- ・今後の施設の計画・設計の各段階において市民が参画できるシステムを作ってほしい。そのことにより、市庁舎がさらに身近に感じられ、長崎のシンボルとして末永く市民に愛される市庁舎になってほしい。

配置
パターン

A-1



A-2



※数字は施
工順を示す

60
施工期間

3期(8~9年程度)

3期(8~9年程度)

敷地内訳
建設可能な建物規模

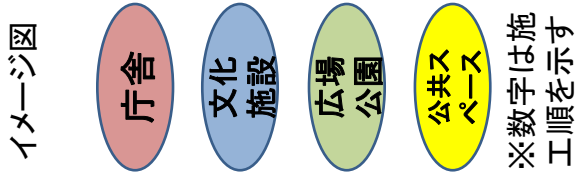
場所	建蔽率	容積率	面積
本館 議会	80%	600%	6,900㎡
別館	80%	600%	3,100㎡
敷地合計			10,000㎡

場所	建蔽率	容積率	面積
本館 議会	80%	600%	6,900㎡
桜町 公園	80%	600%	2,300㎡
敷地合計			9,200㎡

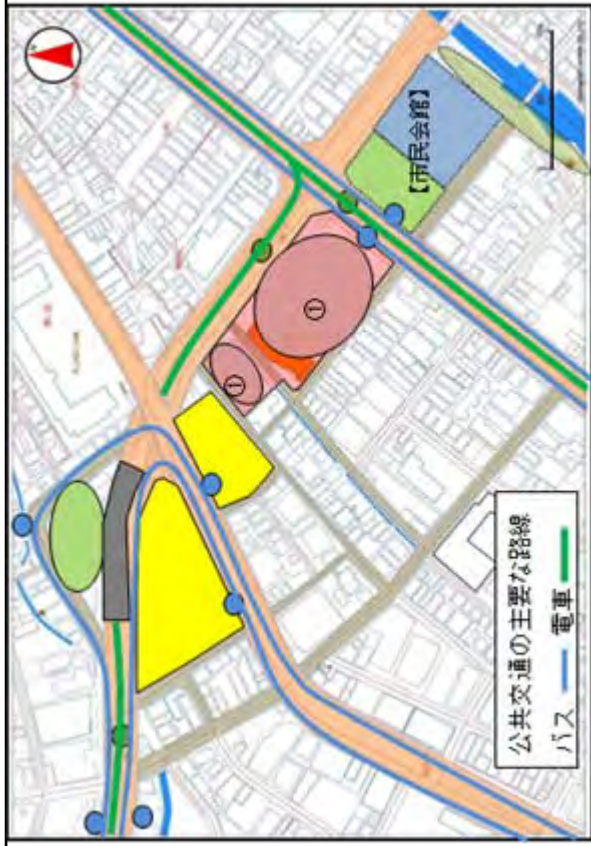
60,000㎡

55,200㎡

配置パターン



B-1



1期(3年程度)

場所	建蔽率	容積率	面積
長崎県勤労福祉会館 長崎地区労働福祉会館	80%	500%	1,500㎡ (一部県有地)
公会堂 公会堂前公園	80%	500%	3,600㎡ 3,600㎡
敷地合計			8,700㎡

建設可能な建物規模

44,500㎡

B-2



2期(5~6年程度)

場所	建蔽率	容積率	面積
別館 長崎県勤労福祉会館 長崎地区労働福祉会館	80%	600%	3,100㎡ 1,500㎡ (一部県有地)
公会堂 公会堂前公園	80%	500%	3,600㎡ 3,600㎡
敷地合計			11,800㎡

63,100㎡

公会堂等文化施設あり方検討委員会報告書の概要

(長崎市の文化施設機能確保の方法)

- 公会堂については、これまで市民の芸術文化活動の発表の場として大きな役割を果たしてきた。
- 老朽化や耐震性の不足、耐震補強の投資効果を見ると、将来に渡り公会堂を使い続けることは困難である。
- 公会堂の平成22年度の稼働率状況を見ると57.3%で、利用者数も年間約14万人と現在も多くの方々に利用されている。
- 公会堂をはじめ、公会堂類似施設の平成22年度の施設稼働率は、平成20年度の公立文化施設年間稼働率を越す数値であり、公会堂の機能の全てを公会堂類似施設で補うことは困難であると予想される。

⇒不足する機能を確保するために老朽化した公会堂に代わる新しい文化施設を建設する必要がある。

(規模・機能)

- 規模については800 席程度から1,200席程度までの意見が一番多い。
- 機能については多目的ホールではなく、専門ホールが必要である。
- 建設地や財政面等の条件による課題はあるが、音楽・演劇どちらかを主体とした中ホールをつくり、補う形でもう一つ別の小ホールをつくることも今後検討が必要。
- ホールの他に求められる文化機能としては、安価で使いやすい練習施設や文化関係者の交流の場、ギャラリー機能の併設や創作の場の必要性など様々な意見があった。

(建て替える場合の建設地)

- 建設地については現在地という意見が多く、そのほか現在地付近との意見もあったが、具体的な候補地の情報が提示されていないため、他の候補地を議論するには至らなかった。
- いずれにしろ方向性としては、交通の便が良く、まちなかなど人が集まりやすい場所。

(その他)

- 長崎市の文化振興のグランドデザインの中で、市内の各施設との役割分担を明確にし、それぞれの個性を伸ばして全体としての質の向上を図ることが重要。
- 設計段階においては、本委員会や市民の意見が充分に反映されているかチェックする機能が必要。
- 現在の公会堂を解体することにより、その機能が一時停止する期間については、建設場所等を早期に決定することによりできるだけ短縮することが必要。